

令和 5 年度

運営に関する計画 (最終評価)



大阪市立加美中学校

大阪市立加美中学校 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 日々の教育活動において、指導法の研究・工夫・改善に取り組んだ結果、生徒の学習に対する取り組み姿勢に良好な変化が見られる。様々な取り組みに対する変化はみられるが、全国学力・学習状況調査や英語能力判定テストなどにおいて、学力の向上を示す大きな数値変化は見られない。
- 日々の教育活動の様々な場面で「互いを思いやる心の育成」を計画的・継続的に実践してきた。結果として、全ての学校行事において、生徒が協力し合う姿が発揮され、秩序ある集団活動ができつつある。しかし、集団に馴染めない一部の生徒の指導と育成が課題である。
- 特別支援教育担当者、特別支援教育委員会を中心に全教職員が、一人ひとりを大切にしたきめ細やかな指導と支援を行い、個に応じた対応が拡充している。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和 7 年度の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 90%以上にする。
- 令和 7 年度の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を 前年度より減少させる。
- 令和 7 年度の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を 増加させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和 7 年度の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 60%以上にする。
- 令和 7 年度までの中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年に比較し、いずれの学年も 前年度より向上させる。
- 大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合(4 技能)を 55%以上にする。
- 令和 7 年度の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合を 50%以上にする。
- 令和 7 年度の校内調査における「家でも学習している」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 50%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和 7 年度の校内調査における「日々の活動の中で、学習端末を活用している」の項目で、「ほぼ毎日」と回答する生徒の割合を 90%以上にする。
- 令和 7 年度末の大阪市調査において、教員の勤務時間上限に関する基準を満たす教職員の割合を 75%以上(基準 2)にする。

2 中期目標に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標

- ・ 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 86%以上にする。(令和4年度 85.2%)
- ・ 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を 前年度より減少させる。(令和4年度 13.9%)
- ・ 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を 増加させる。(令和4年度 2.8%)

本校の年度目標

年度末の校内調査における「学校生活が楽しい」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 85%以上にする。(令和4年度 84.2%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標

- ・ 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 50%以上にする。(令和4年度 38.1%)
- ・ 中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も 前年度より1ポイント向上させる。(令和4年度 1年生国語0.87 数学1.02 、 2年生国語0.88 数学0.81)
- ・ 大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を 50%以上にする。(令和4年度 32.1 %)
- ・ 年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合を 42%以上にする。(令和4年度 40.8%)

本校の年度目標

- ・ 年度末の校内調査における「家でも学習している」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 45%以上にする。(令和4年度 43.0%)

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標

- ・ 年度末の校内調査における「日々の活動の中で、学習端末を活用している」の項目で、「ほぼ毎日」と回答する生徒の割合を 70%以上にする。(令和4年度 データなし)
- ・ 年度末の大阪市調査において、教員の勤務時間上限に関する基準を満たす教職員の割合を 70%以上(基準2)にする。(令和4年度 65.8%)

本校の年度目標

年度末の校内調査における「校内研修組織が確立され、計画的に校内研修を行っている」に対して、肯定的に回答する教職員の割合を 85%以上にする。(令和4年度 81%)

3 本年度の自己評価結果の総括

現在、非常に落ち着いた雰囲気の中で授業や学校行事ができる。

運動会や文化発表会、泊行事などの行事を通じて、よりよい学級・学年集団を作りあげることができてきている。今年度、新たに取り組んだ合唱コンクールではどのクラスも一生懸命、合唱に取り組み、大きな成果を上げることができた。

数値目標は、【安全・安心な教育の推進】【未来を切り拓く学力・体力の向上】【学びを支える教育環境の充実】の各項目において、達成できなかつたものもあったが、全体としては概ね達成できたので「B」とした。

学級・学年集団の育成は全ての教育活動の基盤であり、確かな学力の確立やいじめを生まない集団作りの土台となる。このことを全教職員で再度共通理解を図り、組織としての問題解決力を強化していく。また、生徒の自尊感情を高める支援や人権・道徳教育の充実、主体的・対話的で深い学びをテーマとした教員の授業改善、ICT 教育の充実、基礎基本の定着のため、きめ細かな個別の指導等に継続して取り組んでいきたい。

大阪市立加美中学校 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

| | | |
|------|---------------------|------------------------|
| 評価基準 | A:目標を上回って達成した | B:目標どおりに達成した |
| | C:取り組んだが目標を達成できなかつた | D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかつた |

| 年度目標 | 達成状況 |
|--|------|
| <p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を <u>86%以上にする</u>。(令和 4 年度 85.2%) 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を <u>前年度より減少させる</u>。(令和 4 年度 13.9%) 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を <u>増加させる</u>。(令和 4 年度 2.8%) <p>本校の年度目標</p> <p>年度末の校内調査における「学校生活が楽しい」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を <u>85%以上にする</u>。(令和 4 年度 84.2%)</p> | B |
| | |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗状況 |
|---|------|
| <p>取組内容①【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】 いじめ・不登校対策委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒主体の学校行事や委員会活動を行い、好ましい人間関係や信頼関係を確立できる集団づくりを行う。 毎日の「心の天気」や学期毎の「いじめ等アンケート」を通じて、個々の生徒の状況の把握に努め、いじめや問題行動の早期発見・早期解決に向けて取り組む。 不登校生徒や支援を要する生徒に対して、多様な学習機会や居場所を確保しながら、個別で適切な学びが提供できる体制の構築に努める。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を <u>86%以上にする</u>。(令和 4 年度 85.2%) 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を <u>前年度より減少させる</u>。(令和 4 年度 13.9%) 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を <u>増加させる</u>。(令和 4 年度 2.8%) 年度末の校内調査における「学校生活が楽しい」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を <u>85%以上にする</u>。(令和 4 年度 84.2%) | B |
| <p>取組内容②【基本的な方向 2 豊かな心の育成】 人権教育推進委員会</p> <p>生徒の自尊感情を高め、他者への思いやりの心を育てるために、各学年で系統立てた人権教育や性教育等に取り組むとともに、芸術鑑賞を実施することで豊かな感情を育む。</p> <p>指標</p> <p>年度末の校内調査の「相手の気持ちを考えて話をしたり、行動したりしている」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を <u>95%以上にする</u>。(令和 4 年度 94.9 %)</p> | A |

| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
|--|--|
| 取組内容① | |
| <ul style="list-style-type: none"> 2 学期末までの「不登校生徒の在籍比率」は 14.9%となり、目標を少し下回る結果となった。しかし、不登校生徒一人ひとりに対して、継続した支援を行うことで「前年度不登校生徒の改善割合」は 14.3%となり、目標を大幅に上回る結果となった。 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合は 82.8%となり、目標を少し下回る結果となった。また、「学校生活が楽しい」に対して、肯定的に回答する生徒の割合は 91.5%となり、目標を大幅に上回る結果となった。 | |
| 取組内容② | |
| <ul style="list-style-type: none"> 年度当初の計画に沿って、取り組みを進めることができた。 集中実践だけでなく、日々の学校生活のでも、自尊感情を高めたり、他者への思いやりの心が育てられるよう、生徒をよく見て、全教職員で情報共有を密にして連携をとっていくことができた。 年度末の校内調査の「相手の気持ちを考えて話をしたり、行動したりしている」に対して、肯定的に回答する生徒の割合が 97.9%であり、年度当初の 95%の目標を達成できた。 | |
| 次年度への改善点 | |
| 取組内容① | |
| <ul style="list-style-type: none"> 「心の天気」の実施方法や活用方法については今後検討する必要があると考える。また、生徒が主体となる生徒会活動や委員会活動等を継続して行い、自律した望ましい集団を育成できるよう引き続き指導していく。 | |
| 取組内容② | |
| <ul style="list-style-type: none"> 3 年生の性教育について、長期休みの前に集中実践を行うよう、計画を見直す。 これまで各学年が集中実践で使用した資料や要項等を整理し、実践の蓄積を行っていく。 様々な機関と連携し、外部からの講師を利用する機会を増やす。 | |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗状況 |
|--|------|
| 取組内容③【基本的な方向 2 豊かな心の育成】 道徳教育推進担当 ・ 年間 35 時間の授業時間の確保及び授業内容の精査に努める。 ・ 教科書を有効に活用し、一人ひとりが自分自身の問題ととらえ、「考え議論する道徳」の授業を充実させる。 | B |
| 指標 年度末の校内調査の「自分には良いところがあると思う」に対して肯定的に回答する生徒の割合を <u>80%以上にする</u> 。(令和 4 年度 77. 9%) | |
| 取組内容④【基本的な方向 2 豊かな心の育成】 進路委員会 ・ キャリア教育年間計画・全体計画を策定し、キャリア教育を推進する。 ・ 職業講話(夢授業)や職場体験学習等、職業に関連したキャリア教育を実施する。 | A |
| 指標 年度末の校内調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して肯定的に回答する生徒の割合を <u>90%以上にする</u> 。(令和 4 年度 89.3%) | |
| 取組内容⑤【基本的な方向 2 豊かな心の育成】 特別支援教育委員会 個別の教育支援計画や個別の指導計画を策定し、特別支援教育を推進する。 | C |
| 指標 年度末の校内調査の「子どもは学校生活が楽しいと言っている」に対して肯定的に回答する生徒の割合を <u>90%以上にする</u> 。(令和 4 年度 86.2%) | |

| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
|---|--|
| 取組内容③ <ul style="list-style-type: none"> 授業時間の確保について、概ね計画通りの運行であるため、継続して行いたい。 教科書の有効活用等に関しては、各先生方の取り組みを感じられるため、継続して行いたい。 年度末の校内調査の「自分には良いところがあると思う」に対して肯定的に回答する生徒の割合を 80%以上にする。では、前年度より下回り、令和 5 年度は 72.7%であった。結果から、生徒に対して「ほめる」という教育が今以上に必要にならないかと考える。また、授業においても「間違ってはいけない」という考え方を持つ生徒が多いように感じられる。 | |
| 取組内容④ <ul style="list-style-type: none"> 年度末の校内調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して肯定的に回答する生徒の割合は、令和 5 年度は 93.6%であった。キャリア教育として、SP トランプ(1 年生)、職場体験学習、高校出前授業(2 年生)、進路学習(3 年生)を実施した。 | |
| 取組内容⑤ <ul style="list-style-type: none"> 年度末の校内調査の「子どもは学校生活が楽しいと言っている」に対して肯定的に回答する保護者の割合が 78.3%と、目標の 90%に届かなかった。 | |
| 次年度への改善点 | |
| 取組内容③ <ul style="list-style-type: none"> 行事での授業変更には課題が残る。年間の授業確保により努めていきたいと考える。 指導では「叱る」で終わらず、必ずフィードバックすることを心掛けたい。なぜを追求し、生徒一人ひとりに向き合うことを大切にしたい。そのためには、今以上に学校全体がワンチームとして取り組む必要があると考える。 教室は「間違っていい場所」であることを教職員一同が再認識し、失敗しても「ナイストライ」・「いいね」と自己肯定感を上げる発言を増やしていくべきと考える。 | |
| 取組内容④ <ul style="list-style-type: none"> キャリア教育の年間計画の見直しを行う。 | |
| 取組内容⑤ <ul style="list-style-type: none"> 特別支援学級としては、個別の支援、指導計画を見直し、保護者、全教職員と連携をとり、ひとりひとりに寄り添う教育を行い学校が楽しいと、生徒、保護者が思えるようにしていきたい。 | |

| 年度目標 | 達成状況 |
|---|------|
| <p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 50%以上にする。(令和4年度 38.1%) 中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。(令和4年度 1年生国語0.87 数学1.02 、 2年生国語0.88 数学0.81) 大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を 50%以上にする。(令和4年度 32.1 %) 年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合を 42%以上にする。(令和4年度 40.8%) <p>本校の年度目標</p> <p>年度末の校内調査における「家でも学習している」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 45%以上にする。(令和4年度 43.0%)</p> | B |
| <p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p> <p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 教育課程・学力向上委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> 全教員が年1回以上の研究授業を行い、各教員の指導力向上を目指す。 各教科・総合的な学習の時間・特別活動を通じて、「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業改善に取り組む。 学習習慣や学習内容の定着を図るため、宿題や提出物を計画的に課す。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 50%以上にする。(令和4年度 38.1%) 中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。(令和4年度 1年生国語0.87 数学1.02 、 2年生国語0.88 数学0.81) 大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を 50%以上にする。(令和4年度 32.1 %) 年度末の校内調査における「授業が分かりやすい」に対して、最も肯定的な回答する生徒の割合を 35%以上にする。(令和4年度 32.7%) 年度末の校内調査における「家でも学習している」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 45%以上にする。(令和4年度 43.0%) | C |

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①

- ・ 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合は、24%に留まった。
- ・ 中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対比を、同一母集団において経年に比較した結果、3年生 国語 0.91 数学 0.91 という結果になり、国語 3 ポイント、数学 10 ポイント向上できた。
- ・ 大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)は35.1%に留まった。
- ・ 年度末の校内調査における「授業が分かりやすい」に対して、最も肯定的な回答する生徒の割合は、29%に留まった。
- ・ 年度末の校内調査における「家でも学習している」に対して、肯定的に回答する生徒の割合は、57.6%になり向上した。

【国語科】

引き続き、復習や基礎学力向上に力を入れた。グループ学習では、まず「見方考え方」が習得できていないと話し合うことはできない。どのような点に気がつけば、学びや読みが深まるのかということを指導し、汎用的な能力習得を目指した。

【社会科】

引き続き、グループ学習やペア学習を取り入れている。主に SDGs関連の学習で、民間企業作成の教材を使用した学習活動を取り入れており、生徒からは実生活に繋がるような意見が聞かれた。

【数学科】

学習内容の定着化を図るために、再テストを継続して実施し、リトルティーチャーを設定して生徒同士の学び合いなどを実施した。

【理科】

様々な実験を行い、理科的基礎技術を身につけることができた。実験で得られた資料をもとにグループで話し合いをさせ、考察する取り組みも行えた。来年度も引き続き取り組んでいきたい。

【英語科】

内容量の増えた新課程の教科書や C-net との TT、習熟度別授業、1月時点では広範なチャレンジテストの範囲のため、授業時間に余裕のない状況であるが、4技能をバランスよく取り組んだ。

【音楽科】

本時のねらいを明確化し学習内容に対しての問い合わせを持たせながらグループ活動やペア学習を全学年で実施した。

【美術科】

毎時間の目標を意識することで作品完成へのイメージにつなげ、完成したときの達成感を味わえるよう取り組んだ。鑑賞では画家の思いや場面を想像し、感性を高めることを目標に取り組んだ。

【保健体育科】

様々な種目でペアワークを行い各種目の特性を理解し適切な技能を身につけるとともに、積極的な声掛けなどの結果、特に「走」の部分で記録の向上が見られた。スポーツを楽しむことだけでなく、コーチング技術も身についた。

【技術・家庭科】

子どもたちが少しでも興味・関心をもてるよう、各クラスや生徒に合わせた内容や指導法など工夫をおこなった。また、ICT や動画を活用した授業・実習の説明をおこなうなど、わかりやすい授業説明を実践した。引き続き、授業・実習の工夫に努め、わかる授業の研究・実践に努める。

| 次年度への改善点 | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度の結果を受けて、「自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な回答の割合を向上させるために、振り返りやまとめシートの充実を図り、他者の意見を盛り込みながら記入していくような学習を進めていきたい。 ・ 今年度の結果を受けて、「授業がわかりやすい」に対して、最も肯定的な回答の割合を向上させるために、師範授業の見学や研究授業の参観、自身の授業改善に取り組む等を積極的に行っていきたい。 ・ 今年度の結果を受けて、「家でも学習している」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を向上させるために、宿題や課題の徹底や家庭との連携を進めていきたい。 ・ 年間を通じて、各教科でグループ活動やペア学習などを取り入れ、対話を通じて学びを深めていくことを実施してきた。しかし、中間反省で記述したように、「活動あって学びなし」とならないように各教科で注意をしていくことを来年度も継続していきたい。その為に、研修等に参加し、効果的な学習方法を自校に還元していく。 ・ 学級内での学力の差が大きい傾向があり、同じ発問や質問をしても学級全員が理解できていない場面が見られることから、発問や質問の工夫やユニバーサルデザインの視点を持つなどの改善を行った。効果はあったと感じられるが、新たな問題点として、「教科書を読めない」生徒が少くないことを感じた。言葉の意味や国文法を苦手としている生徒に対してのアプローチの方法を模索していく必要がある。年1回の研究授業や OJT、研究授業、公開授業を通じて、自身の授業改善を行い、生徒がより意欲的に学習に取り組んでいける工夫を各教科、各教員で引き続き実施していくことを継続していきたい。 | |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗状況 |
|--|------|
| 取組内容②【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 図書館担当 言語活動の充実を図るため、図書室の学習環境の整備を行う。 | |
| 指標 <ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館の来館者数と貸し出し冊数を前年度より向上させる。(令和4年度 来館者886人 貸出数723冊) ・ 年度末の校内調査における「読書が好きである」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を <u>55%以上</u> にする。(令和4年度 50.2%) | B |
| 取組内容③【基本的な方向 5 健やかな体の育成】 保健体育科 <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の発達段階に応じた体力・運動能力の向上を図る。 ・ 生涯にわたって運動に親しむ習慣を身につけ、健康に対する意識を高める。 | B |
| 指標 年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合を <u>42%以上</u> にする。(令和4年度 40.8%) | |
| 取組内容④【基本的な方向 4 健やかな体の育成】 保健環境部 生徒が規則正しい生活習慣を身に付け、心身ともに健康な学校生活を送ることができる環境を目指す。 | B |
| 指標 年度末の校内調査における「自分の健康のために、食事に気を付けている」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を <u>30%以上</u> にする。(令和4年度 25.6%) | |

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容②

- ・ 本年度 12 月時点における来館者数は 1025 名 貸出数は 795 冊であり、残り 3 か月残っている段階で、昨年度の来館者・貸出数よりも多くなった。これは、授業での利用や放課後開室日程の増加などが要因に挙げられる。
- ・ 「読書が好きである」と肯定的に回答する生徒の割合は 48.5% にとどまり、目標の 55% 以上は到達できなかった。
- ・ 読書イベントは 4 回（残り 1 回）、図書室イベントは 2 回実施、地域ボランティアによる読み聞かせイベント 1 回実施した。
- ・ 文化発表会当日、保護者向けに開室した。

取組内容③

- ・ 各種目、生徒一人ひとりの発達段階に応じた取り組みを行い、楽しみながら運動能力を向上させることができた。
- ・ 年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合は、48.1% となり、指標を上回った。
- ・ 体育の授業だけでなく、保健の授業においても積極的にペアワークを行い、自発的に発言や行動する時間を多く設けることができた。
- ・ 基礎体力向上のため、各学年、準備運動などで走る時間や補強の強度を高め、単元ごとに必要な技能に関わる運動を確実に実施した。結果として、学年によっては全国平均を上回る結果を得ることができるなど、緩やかではあるが、体力は確実に向上している。
- ・ 各学年年度末にスポーツ大会を実施予定である。

取組内容④

- ・ 年度末の校内調査における「自分の健康のために、食事に気を付けている」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合が 26% であった。
- ・ 毎月 1 回、「食育つうしん」と「ほけんだより」を発行することができた。
- ・ 食育指導を 3 学期に 1 年生で実施することができた。授業の前後を比べると、朝食を食べていない生徒が減つてきていることがわかった。
- ・ 毎日の健康調査では、少しずつではあるが生活習慣を改善しようとしている生徒が増えてきた。
- ・ 給食残食率は、欠席者が多いクラスはどうしても主食が多く残るが、おかずの残食率は減ってきている。

次年度への改善点

取組内容②

- ・ お昼来室が伸び悩んでいるので、昼放送を検討したい。
- ・ 部活や勉強など、生徒自身が頑張りたいこと取り組みたいことについて自主的に行動するのが一番である。ただし、「図書室に行きたいけれどお昼はたべることに精一杯、放課後は部活」という生徒にむけて開室時間や出張図書の検討をしていきたい。

取組内容③

- ・ 小学校の高学年をコロナ禍を過ごしてきた世代ということもあり、基礎体力や泳力など、例年に比べると、総合的にまだまだ低いところがあるが、全学年積極的に楽しみながら体育の授業に取り組めているので、今後も継続して、体を動かす習慣を定着させられるように進めていく。

取組内容④

- ・ 校内調査の肯定的な回答が昨年度より 0.4% だけ上がったので、来年度は 1% でも上げることができるよう、食育つうしんや給食指導で生徒の意識を高めさせるようにする。
- ・ 食育指導を実施する前後でアンケートをとり、朝食欠食者の割合の変化を確認する。

| 年度目標 | 達成状況 |
|---|------|
| <p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度末の校内調査における「日々の活動の中で、学習端末を活用している」の項目で、「ほぼ毎日」と回答する生徒の割合を <u>70%以上にする</u>。(令和4年度 データなし) 年度末の大阪市調査において、教員の勤務時間上限に関する基準を満たす教職員の割合を <u>70%以上(基準2)にする</u>。(令和4年度 65.8%) <p>本校の年度目標</p> <p>年度末の校内調査における「校内研修組織が確立され、計画的に校内研修を行っている」に対し、肯定的に回答する教職員の割合を <u>85%以上にする</u>。(令和4年度 81%)</p> | B |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗状況 |
|--|------|
| <p>取組内容①【基本的な方向 6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】 ICT担当</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習端末の活用を促進するために、校内の環境整備を図り、各授業や学校行事等の様々な場面で活用機会を増やす。 学習端末持ち帰りによる課題の提出や家庭学習を推進する。 <p>指標</p> <p>年度末の校内調査における「日々の活動の中で、学習端末を活用している」の項目で、「ほぼ毎日」と回答する生徒の割合を <u>70%以上にする</u>。(令和4年度 データなし)</p> | B |
| <p>取組内容②【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 管理職</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間会議数の減少と校務支援システムを利用した連絡事項のデータ化を推進する。 部活動支援員の配置による顧問の先生の業務負担軽減を図る。 各委員会と連携し、本校の課題解決に向けた校内研修を計画的に実施する。 <p>指標</p> <p>年度末の大阪市調査において、教員の勤務時間上限に関する基準を満たす教職員の割合を <u>70%以上(基準2)にする</u>。(令和4年度 65.8%)</p> <p>年度末の校内調査における「校内研修組織が確立され、計画的に校内研修を行っている」に対し、肯定的に回答する教職員の割合を <u>85%以上にする</u>。(令和4年度 81%)</p> | B |

| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
|-------------------------|---|
| 取組内容① | <ul style="list-style-type: none"> タブレットの持ち帰りの取り組み後、各学年で長期休暇等の学習課題などでタブレットの活用が見られ、昨年度よりも積極的にタブレットを使用する場面が多く感じた。他校の実用例なども参考にしつつ更なる活用を目指したい。 アンケートについては日々の活動の中で、学習端末を活用している」の項目では全校生徒でおよそ50%であり、心の天気等の活用をさらに増やしていきたい。 |
| 取組内容② | <ul style="list-style-type: none"> 教員の勤務時間については、上限の基準を満たす割合が 80.6%となり、業務負担の軽減を図ることができた。理由としては、今年度配置された会計年度職員の増員と自動採点システムの導入などが挙げられる。 校内研修組織が確立され、計画的に校内研修を行っていると認識している職員のアンケート割合が 100%に到達できた。 |
| 次年度への改善点 | |
| 取組内容① | <ul style="list-style-type: none"> 各教科でのタブレット使用については様々な先生が工夫を凝らし活用をしているので、このまま継続してもらい、こちらはその手助けができるように活動していきたい。 心の天気については引き続き、活用を生徒に促し活用していきたい。 |
| 取組内容② | <ul style="list-style-type: none"> 今年度に研修等でスキルアップした教員の力を生徒達の学力・体力の向上にしっかりと繋げていくことが必要であると考えている。そのためには多くの教員の授業を参観し、人材育成に尽力したい。 教職員間のコミュニケーションを潤滑にするために、さまざまな研修等を校内で実施したいと考えている。 |